

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしく願いいたします。



熊本県酪農業協同組合連合会

代表理事会長

隈 部 洋

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。

会員・酪農家・関係機関の皆さまには、旧年中のご支援、ご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、入国基準の緩和によるインバウンド需要の増加や、物価上昇の影響を受けつつも、個人消費が緩やかに回復しています。

世界に目を向けますと、ロシアのウクライナ侵攻が長期化する中、昨年10月には中東地域でも新たな紛争が発生しており、周辺への影響から原油価格はもとより、物流の停滞や商品価格の高騰など、インフレ再加速が懸念されています。

酪農を取り巻く環境は、生乳生産の減少が続くなか、円安の進行などから飼料価格や生産資材、燃油価格の高止まりが続いており、依然として厳しい状況にあります。生乳の需給には不透明感があり、脱脂粉乳の在庫は前年比較では減少しているものの、予断を許さない状況です。

このようななか、一昨年11月に続き、昨年8月にも飲用向け乳価の10円/kg値上げが行われました。牛乳の小売価格引き上げによる、消費の減少も危惧されましたが、おかげさまでらくのうマザーズ製品は大きな落ち込みもなく消費者の皆様にご理解をいただけたものと思います。これもひとえに、協力組織をはじめとする酪農家の皆様の日頃からの理解醸成活動の賜物だと感謝申し上げます。

本県の生乳生産につきましては、全国と同様に減少傾向にあります。また、県内の酪農家戸数は12月、ついに400戸を割ってしまいました。厳しい経営環境が続いており、今後の動向による生乳

需給の変化には注視が必要な状況です。これからの牛乳、乳製品の安定供給には生乳生産基盤の維持が不可欠であり、本会としましては、酪農経営改善対策をこれまで同様行って参ります。

県内では半導体関連企業の進出が著しく、周辺地域の農地転用による牧草地不足が大きな課題となっています。食料自給率のアップや食糧安保の面からも国、県に協力しながら、酪農をしっかりと継続できるよう酪農生産基盤の維持に向けた働きかけを行います。

本会の令和5年11月までの業績は、事業高490億円と前年比106%と順調に推移しております。乳業事業も新規取引先の拡大や海外への輸出事業が好調に推移しており、特に海外事業につきましては、前年比108%と大幅に増加しております。本県に進出する半導体企業の本国などへも、県と連携しながら引き続き事業拡大に努めてまいります。

本年は、熊本県酪連設立70周年、らくのう牛乳発売50周年という節目の年となります。皆様への感謝とともに日頃からお愛顧いただくお客様に感謝するキャンペーン等記念行事を計画しております。また、7月には熊本工場の冷蔵倉庫の増設が完成予定です。自動化による省力化や最新の設備による品質の高度化が可能になり、物流2024年問題にも対応します。

今後も熊本県の酪農発展のため、皆様と一体となり事業に邁進して参ります。酪農を取り巻く環境は、飼料・資材等の高騰や酪農家の高齢化、後継者不足など様々な問題が山積しておりますが、明るい未来はそこまで来ていると私は考えています。先達から受け継いだ本県の酪農を守り、将来につなぐため、本年も会員、酪農家、関係各位のご協力をいただきながら、役職員一丸となり、皆様の負託に応える事業展開を図ってまいります。今後とも、ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝と益々のご発展を心から祈念し年頭の挨拶といたします。



熊本県知事

蒲島 郁夫

明けましておめでとうございます。

熊本県酪農業協同組合連合会におかれましては、日頃より県政の推進に御理解と御協力をいただきますとともに、酪農・乳業の振興を通じ地域経済の活性化と産業の発展に御尽力いただき、心より感謝申し上げます。

本県は、全国第3位の生乳生産量を誇る西日本最大の酪農県であり、本県農業産出額の1割を占める主要品目となっていることは、酪農家の皆様と貴連合会をはじめとする関係者皆様の不断の努力の賜物であると深く敬意を表します。

昨年は、新型コロナウイルス感染症5類移行に伴う人流回復で県経済は活気を取り戻したものの、世界情勢による穀物価格等の高止まりと急激な円安、飲用向け乳価の期中改訂による国内の生乳需給緩和により、酪農経営は多大な影響を受けました。県では、国の施策とも連携し、飼料価格対策、生産基盤対策、消費拡大対策等の緊急の措置を進めたところです。

本県では、熊本地震、コロナ禍、令和2年7月豪雨災害と度重なる困難を受け、日本における経済、感染

症、災害、食料、地球環境の「5つの安全保障」の確立にチャレンジしていくことを掲げています。貴会が、国土に根差した自給飼料生産基盤の拡大や安全・安心な生乳の安全保障に取り組んでいただいていることは、「食料の安全保障」に大きく貢献されているものと認識しています。

また、とうもろこしの二期作や稲WCSの活用に加え、酪農への理解醸成活動や独自の後継者育成等、地域に根付いた酪農基盤対策を推進しておられることは、昨今の酪農情勢を良い方向へ導いていくものと期待しております。

さらに、牛乳輸出についても香港を中心とした輸出拡大、台湾及び香港からのインバウンド需要対策、キャップ付きLL牛乳充填機の導入等積極的に推進しております。

私の信念は『逆境の中にこそ夢がある』です。今、酪農経営は厳しい環境にありますが、国土保全や食料安全保障につながる自給飼料の生産拡大、牛乳の輸出、スマート農業技術の導入による生産性向上など、これまで取り組まれてきたことを、更に高めていくことが重要です。

夜明けの遅い冬、朝作業を終えるころ冷え切った空気が朝の澄んだ空気へと変わります。寒さで冴え光る朝日のように、酪農環境にも必ずや好機が訪れます。それに向かって県も皆様と共に最大限の努力を尽くして参ります。

最後になりましたが、新しい年が皆様方にとりまして、実り多き年となりますことを心から祈念申し上げます、新年御挨拶といたします。



全国酪農業協同組合連合会

代表理事会長

隈部 洋

新年明けましておめでとうございます。

熊本県酪農業協同組合連合会の会員、酪農生産者の皆様、そして役職員の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。令和6年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、ポストコロナの下で経済活動の回復が進展する一方、欧米における金融引き締めや中国経済の不確実性、ロシアによるウクライナ侵攻に加えイスラエル・パレスチナ問題など、国際情勢が一段と不透明になり、世界経済の減速が懸念されます。

わが国においても訪日外国人数はコロナ禍前の水準に戻り、インバウンド需要拡大への期待が高まりますが、個人の経済活動は緩やかに回復しつつも、物価上昇による家計への影響等から飲用牛乳の消費も低迷しており、私どもも含め酪農乳業関係者の消費者への理

解醸成活動がより一層重要であると考えております。

このような経済状況の中、円安進行による生産資材等の高騰は酪農経営を圧迫し、一昨年に続き乳価は値上がりしたものの、コロナ禍における生乳需給緩和による生産抑制等の影響により、乳用牛への黒毛和種交配率が上昇し、今後、搾乳後継牛の減少による生乳生産量の低下、および将来の生乳生産基盤を維持できるのか危惧しているところです。

本年4月からは、私ども全酪連の第十三次中期事業計画が始まります。「全酪連将来ビジョン」策定時には想定し得なかった酪農経営環境や社会環境の変化を踏まえ、将来ビジョンのテーマである持続的な酪農生産基盤の構築のため、引き続き、酪農乳業が直面する様々な課題に柔軟に対応するとともに、より一層、酪農生産者・会員の皆様の負託に応えるべく「販売事業の強化」「管理部門の最適化」による弊会の収支構造の改善にも力点を置いた基本方針を策定しています。今後とも酪農生産者の皆様に寄り添い、会員の皆様のご協力を賜りながら、日本国民の食料生産の役割を担い、生乳を安定的に供給し続けるため、持続的な酪農生産基盤の構築に尽力する所存であります。

最後になりますが、熊本県酪農業協同組合連合会の会員、酪農生産者の皆様、そして役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



九州生乳販売
農業協同組合連合会
代表理事会長

中村 隆馬

新年あけましておめでとうございます。

また日頃より、熊本県の酪農家の皆様並びに熊本県酪連役員の方には、本会の事業推進にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

一昨年、昨年と我々酪農家はかつて経験したことがないような厳しい酪農経営環境にありました。長く続いたコロナ禍の影響による国際情勢や円安により飼料、生産資材、燃料等は高止まりしたままです。乳価の値上げから何とか酪農の先行きが見えてきた1年となりましたが、一方では副産物価格が下がっておりこれからの経営回復への影響が懸念されます。

本会は昨年、一昨年に引き続き九州酪農の存続のため再び乳価交渉に臨みました。前回交渉と同様に大手乳業三社の本社に出向いて交渉を行い、酪農経営環境の厳しさについて理解を頂き、令和5年8月分から飲用・はっ酵乳向けが値上げとなりました。手取乳価は上がりましたが、再三におよぶ食品や生活資材の値上

げによる買い控えから牛乳・乳製品の消費も徐々に減退してきています。消費の減退と生乳生産の回復から乳製品在庫の積み増しも想定され、昨年度に引き続き酪農乳業乳製品在庫調整特別対策事業で在庫積み増しのリスクを回避するよう国・生産者・乳業者で取り組んでいます。また消費者の皆さんに牛乳乳製品を買ってもらうためにも、酪農理解醸成・牛乳消費拡大運動を通じて、生産コストの急激な上昇による必要な値上げであることや牛乳乳製品の価値を訴求することが必要です。本会も引き続き酪農理解醸成・消費拡大運動に取り組んでいきますので、会員の皆様のご協力をお願いします。

酪農経営を安定させるためには、生乳販売における指定団体の生乳需給調整機能を最大限発揮することが重要であり、そのためには酪農家の皆様の協同精神や組織の結束が必要になります。一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍も終息に向かい、長らく開催できなかった共進会や研修会等が開催できるようになりました。やっと酪友と会って話ができるようになり、情報交換や我が家の酪農経営について話すことで鋭気を養えると思いますので、積極的に参加して交流を深めたいと思います。

最後になりますが、年頭にあたり皆様方の御健勝、御多幸と九州酪農の繁栄を祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



熊本県酪農青壮年部協議会
委員長

中村 俊介

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、当協議会の事業運営につきましては、多大なご理解とご協力をいただいております事に心より御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症も落ち着いて、各協議会での会議並びにイベントへの参加が増えており、怒涛の日々を過ごしております。一方で、急激な為替の円安が留まることを知らず、配合飼料や輸入粗飼料の価格高騰は依然として変わらないため、酪農情勢は厳しい状況が続いております。

令和4年に引き続き期中改定といった乳価の値上げが行われました。一方で、消費が減少するため一般消費者に対する理解醸成活動が重要となります。その中で、一般消費者の購買意欲をどう上昇させるのかといったことを考える日々です。

当協議会では、一般消費者への理解醸成活動や酪農家の知識取得に向けた活動を行ってまいりました。6月の「ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」や11月「2023くまもと農業フェア」では、一般消費者にLL牛乳を中心とした理解醸成グッズ等の無料配布を実施し、「牛乳購入します。」や「勉強になりました。頑張ってください。」といった言葉をいただき、理解醸成の大切さとやりがいを感じることができました。また、11月初旬には「酪農ふれあい体験交流事業」を約65名の年長、年中の園児を対象に実施し、園児達の笑顔や牛との触れ合いを通して、酪農の素晴らしさをお伝えすることができたと実感しております。

さらに、8月には全て対面で「夏季酪農大学」を開催することができました。当日は、「農業の未来と持続可能な農業経営とは」と題しての講演で農業経営の基礎的な部分を再認識していただくよい機会だったのではないのでしょうか。

依然として、酪農家戸数の減少による生産基盤の弱体化が続いております。今後の酪農情勢につきましても先行きは不透明ですが、明るい未来の到来を信じて少しでも一般消費者の方々に牛乳を手にとっていただけるよう、当協議会で活発な理解醸成活動を実施して参りたいと思います。

最後になりましたが、本年も皆様方にとって良い年となります事を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農政治連盟

委員長

隈 部 洋

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より当連盟の活動に対し、会員の皆様にはご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症の分類が見直されたことにより、人の動きが活発になり、海外からの観光客が増えましたが、酪農乳業においては需給緩和傾向が続き牛乳の消費は低迷しています。乳価は10円が再度引き上げられたものの、ロシアによるウクライナ侵攻後の国際的な影響や急激な円安の進行により、配合飼料・購入乾牧草価格や生産資材価格等が高止まり傾向であること、さらに、子牛価格が大きく下落しており、依然として酪農経営は危機的な状況です。このまま経営環境が改善されなければ、生産者の廃業が一層加速し、酪農生産基盤の崩壊が危ぶまれます。

このような中、当連盟におきましては、酪農政策の拡充を求め、関係団体と連携し対策の迅速な実施など、様々な要請活動を行って参りました。また、昨年引き続き、フードバンク熊本へのLL牛乳の贈呈や新聞広告掲載による牛乳価格値上げに対する消費者への理解醸成活動など積極的な消費拡大への取組みを展開しました。

さらに、7月の全体委員会は農水省牛乳乳製品課の中坪乳製品調整官を講師に招き、酪農を取り巻く情勢について見識を深めました。11月には農水省と酪農畜産予算及び施策に関して意見交換・要請活動を実施するとともに、都内で本県選出国會議員を招き酪農家の現状を訴え、本県ならびに都府県酪農への支援および総合的酪農経営支援対策の継続と拡充の要請を行っています。

また、昨年4月の熊本県議會議員選挙におきましては、本連盟公認・推薦候補者の当選を目指しご協力頂きましたこと、改めて御礼を申し上げます。当連盟では熊本県議会自民党酪農政会と酪農懇談会を実施し、熊本県酪農への理解と酪農環境改善支援への要請を行っています。

令和6年度の補給金単価と集送乳調整金は合算すると前年から26銭の引上げが決定されました。また、2024年問題として、本年4月からのトラックドライバーに対する時間外労働の上限規制適用に伴う集送乳経費の上昇が懸念されるため、事業活用により奨励金として7銭上乘せられます。しかし、現状の水準では酪農経営の安定には及びません。今後とも国による強力な支援、国民の酪農への理解と消費拡大の協力が必要とします。

本年も厳しい酪農経営環境打開のため、予算獲得ならびに政策の実現に向け、個々の生産者の声に耳を傾けながら関係機関・団体とも協調し、一致団結し組織運動に尽力して参ります。この危機的状況を乗り越え将来へ希望をつなげるため、今後とも更なる活動充実に向け、会員ならびに関係者各位のご協力、ご支援をお願いします。

最後に、皆様のご健勝とご発展を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農女性部協議会

会長

富 田 裕 美

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、会員の皆様、各関係機関の皆様には日頃より女性部活動に、多大なるご理解ご協力を賜わり心より感謝申し上げます。

さて、昨年の5月よりコロナが「5類感染症」に位置づけられ、女性部の活動も精力的に活動できた1年だったと実感しております。特に牛乳や酪農への理解を深めてもらおうと理解醸成活動に力をいれて参りました。6月の「ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」では県庁および九州農政局を訪問し、蒲島県知事、宮崎農政局長へ牛乳の贈呈式を行い、目の前でご試飲いただくことができました。これを皮切りに各支部においても牛乳の消費拡大をアピールいたしました。同じく6月に初めての取り組みとして阿蘇ミルク牧場において一般生活者を対象に理解醸成活動を行い、バター作り体験、酪農家による「牛」についてのお話、酪農に関するクイズ大会などを通して参加者の方と交流を深めることができ、「楽しかったです」とお声をかけていただきました。11月の「くまもと農業

フェア」では搾乳体験、哺乳体験また酪農のお話を聞いた方には、LL牛乳やチーズ等の配布を実施し多くの方に喜んでいただき、中には激励の言葉をかけてくださる方もいました。一般生活者の方に直接言葉をかけていただくことは励みにもなり、改めて理解醸成活動の大切さを感じました。

8月の「夏季酪農大学」では『農業の未来と持続可能な農業経営とは』と題した講演を催し、今後の酪農経営に繋がるお話を伺う事ができ有意義な講演だったと思います。

10月には「熊本県酪農女性レクリエーション大会」を開催し、122名の幅広い年代の女性酪農家が参加し親睦を深めました。2回目となる「ボッチャ」競技は怪我もなく、みなさん笑顔で楽しんでいらっしゃいました。

なお、今年は2月28日に「酪農女性の集い」の開催を予定しております。熊本を拠点に活躍されているタレント「大田黒 浩一」氏による記念講演を計画しております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。ぜひ周りの方へのお声かけもよろしく願いいたします。

昨今の酪農を取り巻く環境は依然として厳しい状況です。その中で私たち女性の酪農家は今何ができ、何をすべきかを考える時期ではないかと思えます。会員の皆様と一緒に知恵を出し合い、牛乳の消費拡大ならびに酪農の理解醸成活動に向けて多くの活動ができるよう努めて参りたいと思っておりますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、この新しい年が佳き年になりますように心より祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。